

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ビジネス実務演習B(Seminar of Business Studies B)		授業コード	E004151
担当教員名	國分 孝志			
配当学年	2	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	(1)週2コマなので履修に当たっては必ず双方を登録して下さい (2)「全国大学・短期大学実務教育協会」規定により週2コマでも単位は2単位です。 (3)「ビジネス実務演習A」を履修していることが望ましいですが、資格取得を前提としない場合等、「ビジネス実務演習B」単独でも履修を認めます。			
受講心得	(1)テキストを使用しないので、必ず出席してノートを取って下さい。それが小テスト、期末試験のベースとなります。 (2)小テストは必ず受験して下さい。受験しない場合は単位を取得できないことがあります。			
教科書	なし			
参考文献及び指定図書	「ビジネス実務演習」福永弘之他著(樹村房)、「ビジネス実務総論」全国大学・短期大学実務教育協会編(紀伊国屋書店)、その他、講義で紹介します。			
関連科目	「全国大学・短期大学実務教育協会」認定の「(上級)ビジネス実務士」の資格取得要件の科目全て。詳細については講義で説明します。			

授業の目的	この演習は実社会のビジネスに係る実務演習で、ビジネス活動の実践的・具体的内容を習得するものです。また、「全国大学・短期大学実務教育協会」認定の「(上級)ビジネス実務士」の資格取得を目標とします。(資格取得のための詳細な要件については講義で説明します。)受講者全員の資格取得を切望します。
授業の概要	経営計画、損益分岐点分析、目標管理、資金収支計画、経営分析

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：受講心得、講義・演習の概要説明 この講義・演習の受講心得、目的・到達目標、資格取得の要件と単位数、及び講義・演習の概要について説明します。	
第2週：経営計画演習(1) 学生に馴染みやすく、分かりやすい経営モデルを提示し、それを経営学の基礎及び企業の事業モデルと結びつけて演習を行います。経営モデルとしては大学祭の模擬店経営とし、新規事業計画の企画立案、需要予測、販売・利益計画、資金計画等について理解します。	
第3週：経営計画演習(2) 組織の機能と構築計画、複数の組織モデルを提示・説明、総合経営計画に纏め上げることを演習し、理解します。あわせて、計画フォロー体制について学び、経営管理のマネジメント・サイクルについて習得します。	
第4週：経営計画演習(3) 経営計画のなかで販売・利益計画策定のツールとしての損益分岐点分析について、その基本である、固定費、変動費の概念を説明するとともに、グラフにより理解を深めます。	
第5週：経営計画演習(4) 損益分岐点の解、即ち公式の求め方、方程式でのアプローチを説明、グラフとの関連について説明します。更に公式から導き出せる経営改善諸対策について説明、損益分岐点分析についての理解を深めます。	
第6週：経営計画演習(5)	

経営モデル1を提示、損益分岐点分析、販売・利益計画、目標設定、組織計画の策定演習を行い、理解を深めます。	
第7週：経営計画演習(6) 経営モデル1の経営諸計画をベースに資金計画の演習を行い、資金繰りの重要性を理解するとともに、実行予算計画の策定とフォローを説明、経営管理マネジメント・サイクル及び計画未達成の場合の危機管理について理解します。	
第8週：経営計画演習(7) 第1－7回の小テストを行い講義内容の理解度の確認と講義の纏めを行います。	
第9週：経営計画演習(8) 経営モデル2で同様の損益分岐点分析、販売・利益計画、目標設定、組織計画、資金計画、実行予算計画を実施することで理解を更に深めます。	
第10週：経営計画演習(9) 第9回の小テストを行い講義内容の理解度の確認と講義の纏めを行います。	
第11週：経営計画演習(10) 変動費率を用いないで単価と数量を用いた損益分岐点分析の説明を行うとともに、経営モデル1により演習することで理解を深めます。	
第12週：経営計画演習(11) 同様に経営モデル2で変動費率を用いないで単価と数量を用いた損益分岐点分析の説明と演習を実施し理解を深めます。	
第13週：経営計画演習(12) 第11・12回の小テストを行い講義内容の理解度の確認と講義の纏めを行います。	
第14週：経営計画演習(13) 損益分岐点分析の理解において、経営モデル1・2は単純なものであるので、更に様々なケースを用いた損益分岐点分析の説明を行うとともに、固定費、変動費の詳細説明を実施して理解を深めます。更に損益分岐点操業度・安全度についても説明し、損益分岐点分析の多面的な活用について習得します。	
第15週：経営計画演習(14) 第14回の小テストを行い講義内容の理解度の確認と講義の纏めを行います。	
第16週：経営分析(1) 貸借対照表(B/S)・損益計算書(P/L)を用いて経営分析の演習を行います。B/S、P/Lは分かりにくい概念であるので、歴史的な背景からその成り立ちと特徴について説明し、理解を深めます。	
第17週：経営分析(2) B/Sについて、簡単なモデルからB/S作成演習をします。B/S勘定科目の名称と内容についてモデルに従って説明し、その理解を深めます。	
第18週：経営分析(3) 簡単なB/Sモデルから、その企業の経営分析を行います。このことによりB/Sが表している意味を理解するとともに、B/Sの見方を習得します。	
第19週：経営分析(4) 数社のB/Sから、それぞれの企業の経営状況分析を行い、比較検討します。このことにより、危険な企業及び健全企業の見分け方を習得します。	
第20週：経営分析(5) P/Lの内容について説明するとともに、数社のP/Lを比較検討することにより企業の経営における問題点を洗い出し、P/Lの内容を習得します。	
第21週：経営分析(6) B/Sから企業の自己資本比率について説明するとともに、数社を比較検討することにより、経営分析について理解を深めます。	

第22週：経営分析(7) B/Sから企業の流動比率について説明するとともに、数社を比較検討することにより、経営分析について理解を深めます。		
第23週：経営分析(8) B/Sから企業の流動比率について説明するとともに、数社を比較検討することにより、経営分析について理解を深めます。		
第24週：経営分析(9) B/Sから企業の当座比率について説明するとともに、数社を比較検討することにより、経営分析について理解を深めます。		
第25週：経営分析(10) B/Sから企業の固定比率について説明するとともに、数社を比較検討することにより、		
第26週：経営分析(11) 第16—26回の小テストを行い講義内容の理解度の確認と経営分析の纏めを行います。		
第27週：経営分析(12) B/S・P/Lから企業の回転率について説明するとともに、数社を比較検討することにより、経営分析について理解を深めます。		
第28週：経営分析(13) B/S・P/Lから企業の総資本利益率について説明するとともに、数社を比較検討することにより、経営分析について理解を深めます。		
第29週：経営分析(14) 第27—29回の小テストを行い講義内容の確認と理解を深めます。		
第30週：総合復習及び期末試験説明 講義・演習全体の総合復習を行うことにより、講義・演習の理解を深めるとともに期末試験の説明を行います。		
第31週：期末試験 試験時間は80分、自筆ノートのみ持込可とします。		
第32週：追試・再試またはレポート 時間・要領は試験と同じ。またはレポート課題提出とする。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
備考	病欠(病院薬局の領収書)・慶弔(招待状・連絡状)・就活(説明会案内・名刺)・クラブ活動大会参加(欠席届)・その他緊急事態など、合理的理由と証明書があれば、ノートを書き写していることを条件に「欠席」とはせずに「公欠」とします。	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	ビジネス界で働くことは何かを常に問題意識を持って考え取り組むことができる。資格取得のための必要単位取得。
【知識・理解】	ビジネス界で必要とされる社会人としての基礎知識の理解と習得。
【技能・表現・コミュニケーション】	相手の話を理解するとともに自分の考えを正しく相手に理解できるように伝えることができる。
【思考・判断・創造】	常に新しいことに挑戦し、複数の選択肢からベストと思われるものを決断することができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	10点	10点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	15点	15点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点	10点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	15点	15点		
(「人間力」について)				
<p>※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p>				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	Sレベル: 単位を習得するために到達すべき目標を十分に満たしている。Aレベル: 単位を習得するために到達すべき目標をほぼ満たしている。Bレベル: 単位を習得するために到達すべき目標をかなり満たしている。Cレベル: 単位を習得するために到達すべき目標をやや満たしている。
発表・その他 (無形成果)	